

令和7年度 第3学期始業式 講話

本年は、真冬の寒気が流入する中での新年の幕開けとなりましたが、正月を迎えるに当たり、各々が昨年を顧みながら「一年の計」を立てたことと察します。また、皆さんが元気な姿で第3学期始業式に臨んでいることを嬉しく思います。

本年の干支は、十干の丙と十二支の午を組み合わせた丙午です。丙は太陽のような明るさやリーダーシップ等を、午は行動力、前進力をそれぞれ象徴するものとされることから、本年は情熱や勢いが高まり、エネルギーに満ち溢れた一年になるという説が見られます。

ここで、本年の十二支である午について掘り下げてみます。午は動物の馬を指すとされますが、皆さんは馬に対してどのようなイメージを抱いていますか。もしかしたら、テレビの画面に映る競馬のシーンから、「競走馬」としての姿が印象として残っている人が多いのではないかと想像します。馬は、最近まで世界各地において人類の生活を支えた最も重要な動物の一つであり、我が国においては中世の絵図等に馬が田を耕し、人や荷物を運んだ様子が描かれています。また、馬は、古くから「神の使い」として神社で祭られており、神に馬を奉げる風習から「絵馬」という言葉も生まれ、武士が活躍した時代には勇氣・忠義・信賴の象徴として尊敬を受け、「馬を制する者が戦を制す」とも言われました。人は馬と日常的に関わっていく中で、馬が人の声や態度を敏感に感じ取る存在であることに気付き、観察眼や知恵を磨き、「馬が合う」、「人馬一体」といった様々な言葉を残しています。こうした言葉からも、人は馬と向き合いながらともに社会に深く関わり、伝統や文化を共創していったことがうかがえます。

さて、本校は、昨年をもって干支が一巡し、二度目の丙午の年を迎えました。本年は、この数か年間の取組を整理するとともに、各教科・科目等において社会の変化や地域のニーズに即した教育活動をより一層展開していきたいと思案しています。具体的には、昨今、国や地域といった活動の舞台を問わず必要とされているIT・情報技術分野を志向する人材を、部活動である情報部の活動も含め一層活性化させて輩出していくことや、新上五島町内において令和数年間で在留外国人数が倍増したことを踏まえ、多文化共生社会への対応を図っていきたいと考えています。併せて、多様な立場の人たちと対話を重ねながら、新しい価値を「共」に「創」り上げ、自分自身を大きく輝かせる年にしていくため、個々においてより一層学びを深め、人生や生活がより豊かなものになるための取組を進めていくことを期待しています。